

# 北広島で進む 企業立地

## ことし6社が進出表明

北広島市で企業立地が相次いでいる。道内外の企業が工場などの新設計画を立て続けに表明。市では「大変喜ばしい」とし、誘致活動により力を入れる考えを示す。災害リスクが少なく、札幌や新千歳空港に近いことが企業の関心を呼んでいるようだ。

年明け以降、市内で新 計製造のユニシス、自動車部品製造を表明したのは医療用 車整備の日北自動車工業、医薬品卸の中北薬品、食品品卸の加藤産業、菓子製造販売の石屋製菓、食品製造の彩香の6社。

ユニシスと日北自動車工業、中北薬品、加藤産業は7月末、物流センター建設を福野に約2万2000平方メートルの土地を確保した。

### 低い災害リスクと好アクセスを評価

ユニシスは、延べ約2500平方メートルの工場に着工済みで、来春の稼働を目指す。埼玉県越谷市に工場を置いていたが、BOP(事業継続計画)の観点から、工場体制に

の4社は輪厚工業団地内、石屋製菓はJR駅の近く、彩香は大曲にそれぞれ建てる。ユニシスは、延べ約2500平方メートルの工場に着工済みで、来春の稼働を目指す。埼玉県越谷市に工場を置いていたが、BOP(事業継続計画)の観点から、工場体制に

よるリスクを回避しよう」と北広島への立地を決めた。日北自動車工業は、工場と事務所の建設場所として、5月に工業団地内の土地約1600平方メートルを取得。中北薬品は、液体飲み薬を製造する延べ1万平方メートルの工場新設を7月に決め、2015年3月の着工を予定する。加藤産業は7月末、物流センター建設を福野に約2万2000平方メートルの土地を確保した。

石屋製菓も7月末に、主力製品の「白い恋人」を製造する新たな拠点を整備する方針を明らかにした。全日本食品配達センターの跡地約2万2000平方メートルに、延べ1万3000平方メートル程度の工場を計画。17年春の完成を目指す。彩香は、井田

も総菜類を製造する延べ約6000平方メートルの工場を15年2月にも着工する方針だ。

各社は北広島を選んだ理由として、災害リスクの少なさと高速道路のインターチェンジに近いというアクセス性の良さを挙げる。中でも大浦農地の札幌や物流の要となる新千歳空港まで短時間で行くことでの「一地の利」を重視する声が多い。「これほどの条件を備えた場所は全国的にも少ない」といった指摘もある。市では、企業立地が好ましいことを受け、今後の誘致活動により力を入れる考えだ。企業立地推進室には全国の企業からの問い合わせがあり、担当者らは「これら企業にできる限り足を運ぼう」としている」と話す。各企業が主催するイベントにも積極的に参加し、北広島の魅力や魅力を全国で発信する取り組みを行っている。